

# この街で



注:この広報誌は、地域の皆さんを対象としています。

## 第23号

発行日 平成19年10月19日(金)

発行 サポートセンター 径 広報係

〒 247-0034 横浜市栄区桂台中4-5

TEL 045-897-1101 fax 1119



### — 目 次 —

P.1 表紙：ミニリンピックでのひと場面

P.2 新潟中越地震復興支援活動報告

P.3 にんにくの視点

P.4 所長交代

P.5 地域レポート最前線

P.6 おしらせ



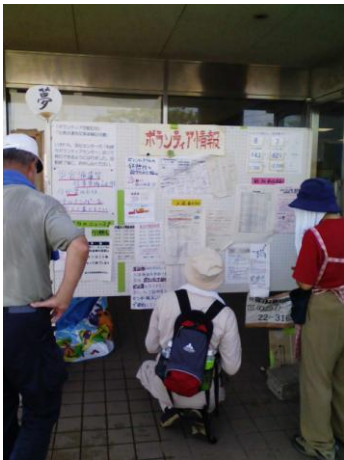
# 新潟中越地震復興支援活動報告

## 新潟中越地震復興支援活動報告

8月上旬に、私は柏崎市に新潟中越地震復興支援活動に参加してきました。震災から、すでに1ヶ月近く経とうとしていましたが、街の状況は震災当時の面影を刻銘に残しています。道路が波打ち、歪んだマンホールの蓋が側道に転がっています。また、地震の影響で真っ二つに裂けている一般家屋もあり、地震のエネルギーや破壊力の凄まじさを現地で実感してきました。



一方で、街には「災害復興支援」と書かれたステッカーを貼った車や自衛隊の車両が行き交い、自分たちの暮らしを取り戻すために市民はボランティアと共に懸命に復旧活動に取り組んでいました。しかし、依然として混乱状態は続いており、ボランティアのコーディネートもうまく機能していません。そのコーディネートしている方々は被災者である市民が中心となっています。



その中でやはり一番身近で頼りになるのはご近所さんとのつながりでした。派遣先の施設でも、震災当時から近隣の住民の方が差し入れをしてくれたり、何かと気にかけてくれたそうです。自分たちの家が全壊してしまっているにも関わらず！

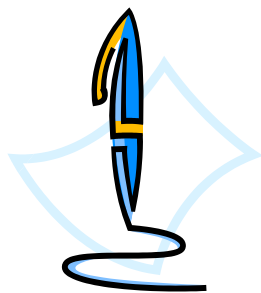
日本は言わずと知れた地震大国、この関東・東海地方も大規模地震の危険性が公表されてから、30年近くが経ちました。「その時」災害弱者と言われる方たちはどうになってしまうのか考えると、今回の震災も対岸の火事ではありません。

危機管理能力が弱いと言われ続けているこの国で、災害が起きたときどうすれば良いのか。復興支援活動への参加を通して、私個人「径」として・・・改めて考える機会になりました。



「あの施設は障害者と高齢者がいて、いつも何かやってる」ではなく、利用者もスタッフも地域みなさんに顔の見える関係でいたいと改めて感じます。この桂台の地域あつての訪問の家であり、サポートセンター径なのですから！

相談支援室 立花秀彦



# 地域レポート最前線

## 「ミニリンピック」

～地域と共にいる運動会～

地域の皆さんこんにちは、今回の地域レポート最前線は5月に行われたミニリンピックのお話です。

ミニリンピックというのは、本中連（本郷中央連合町内会自治会）という地域の各自治会が集まり、主催する運動会です。訪問の家は自治会ではありませんが、毎年他の自治会同様参加をさせて頂いています。



訪問の家がミニリンピックに参加し始めて十数年が経ちます。参加を重ねる度に地域の方々には障害のある方たちへの理解が深まっていると実感しています。

今回のエピソードを一つご紹介します。普段はマラソンなどに消極的なゆいグループの高田さん。今年度はいつにも増して参加しやすい雰囲気だったのか、自ら「やってみる」と言い出しました。しかし高田さんが言い出したときにはすでにマラソン競技のスタートには間に合いませんでした。残念さを隠しきれない高田さんに地域の方が「途中からでよければ参加しませんか」と声を掛けて頂き、飛び入り参加として出場することができました。走る高田さんに周りから「頑張れ」の声援がたくさん。その声が励みになり見事完走することが出来ました。走り終えて「楽しかった」と満足げな様子（表紙の写真を見てください!!）、自信や嬉しさに繋がったようでした。

一人の人が苦手だと思っていた事も克服出来てしまう、温かい雰囲気運動会が栄区という地域では作り上げられているのだと感じました。

準備段階から実行委員の皆様と一緒にさせていただき、事前の打合せから当日の競技に至るまで訪問の家の参加があることを前提で多くのことを考えていただいている事に大変驚きました。私はプライベートで地域の運動会に参加したことがなく、どういうものなのか想像が付きませんでした。

参加をしてみて参加者全員が一体となって出来るこの地域はとても恵まれているとうらやましく思いました。

この貴重な体験を大切にしていきます。

日中活動支援 金子洋平

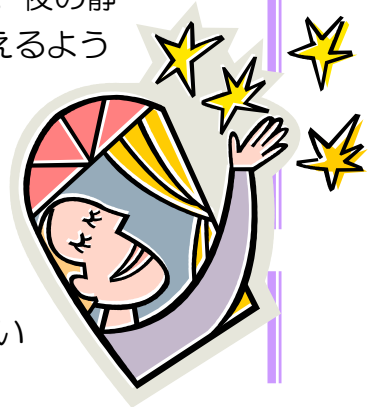
# 当直室から

夜、みなさんが寝静まった後に幸せな気持ちになって1日を振り返ります。時にそれが1年、2年…9年前にも遡ることもあります。

私は、サポートセンターでさまざまなことを学び9年目となりました。夜の静けさと共に心が優しさで包まれ「今日、あなたに出会えたことに感謝」と思えるようになりました。

肌に触れ、声を聴き、瞳を見つめ…この人との関わりがもたらすエネルギーに「明日も頑張ろう!」とみなさんの寝顔を見ながら私は笑顔になれるのです。この喜びを支援者としてのパワーに替えて生活支援事業のスタッフ一同、これからも日々学び合っていきます。

幸せの輪となってみなさんをお持ちしていますね。これからもよろしくお願ひします。



生活支援事業 高木百合子

## 夏の記憶

皆さんは、「夏休みの思い出」と言ったらなんですか？海水浴、セミ取り、田舎のおばあちゃんの家、真っ赤なスイカ…でも、やっぱり、8月31日の夕方からまとめて書く絵日記や工作など、宿題の山でしょう。（それは、私だけ??）

話がそれました。今年の夏休みも、地域にお住まいの小、中、高校生のショートステイ登録者を対象に、今や恒例となった「夏プロ」を企画いたしました。



みんなの夏休みの思い出の1コマになりましたか？



みんなからの意見や、お母さんからのアドバイスはスタッフの宿題になりました。今、スタッフは、その「夏の宿題」に取り組んでいます。その結果は???乞うご期待!!

**「当日キャンセル」はお早目に!**

いつもご利用いただきありがとうございます。

一時ケア・ショートステイを当日キャンセルされる場合はお早めにご連絡ください。食事のキャンセルが間に合わず、実費をいただく場合があります。

# にんにくの視点

夏の宿泊会に参加させてもらって

私が径で働かせていただくようになって、今年で4年目になりました。1年間の生活支援事業を経て、日中活動のグループ『パン工房ゆめ』の担当になり3年目を迎えました。最初は不安もありましたが、今ではどっぴりゆめの皆さんの魅力にはまっている毎日です。

さて、ゆめで3年目を迎えるにあたって自分の仕事を振り返り、何を残してきたのだろうと考える機会がありました。ゆめでは医療的ケアの必要な方が何名かいらっしゃいます。そんな中、私も医療的ケアに携わらせていただいています。最近よくニュースでも取り上げられていますが、本来なら医療行為というのは家族や医療従事者(ドクター・ナース)しか行ってはいけないと法律で決められています。これでは彼らが、自分の生まれ育った地域で暮らしていくという当たり前の事ができないという現実があります。地域で暮らすという事を支援していく立場にあって、この矛盾は何なのだろうと思うようになりました。

そんな時、ゆめの利用者さんである貴史さんのお母さんから「もしよかったら、夏のお泊り会に参加してみない？」というお誘いを受けました。色素性乾皮症という障害を持つ方の関東地区の家族会(ひまわりの会)が毎年主催しているこのお泊り会で、その家族のお話を聞くことができました。静岡や福島から参加された家族のお話では、その地域の養護学校では医療的ケアがあるがゆえに親が常に駐車場や別教室で待機していないといけない。卒業後の受け入れ先は病院の運営しているところしかない、といった内容でした。横浜は日本のデンマークと言われているだけあって、やはり進んでいるといった声もありました。私は、肩身が狭い思いを感じました。というのも、今回のお泊り会に誘ってくださった貴史さんのお母さんは、これらの矛盾に疑問を投げかけたくさんの事を成し遂げてこられました。しかし、まだまだ足りない!!といつも私達に訴えてきてくれるのです。

しかしその訴えに答えきれないという事実…



私達の仕事は地域で暮らす事を支援する。今回お泊り会に参加させてもらい、私ができる事は何か考えた時に、思い出すのは「医療は専門性ではなく、関係性だ」という言葉です。皆の事を一番知っているのは家族、でもその次に知っているのは私達スタッフであると自負しています。だからこそ「あ、困っているな」と感じた時にすぐに手を差し伸べあえるような世の中になるように、私達現場からも声を出していかなければならないと強く感じています。

パン工房ゆめ 橋本亜矢子

# 所長交代のお知らせ

平成 19 年 9 月 1 日付けで前所長白鳥基裕に代わり金子恵子が就任いたしました。

7 年間所長をさせていただいた白鳥は、10 月より開所している旭区の法人型活動ホーム『連』へ所長として異動になりました。

9 月から径の所長に就任致しました金子です。開所から十数年間を朋で、その後径に異動し、この 6 年間は相談支援業務に就いていました。

相談支援では、その方の抱えているものの大きさにただただ聞き入るばかり、右往左往もいっばいの本当に頼りない相談員だったと思いますが、多くの方との出会い、たくさんのことを学ばせていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

相談室は数年前に分室として移転しましたので、この 4 月に久しぶりに桂台に帰ってきたような気もしています。径の立上げから関わっていた前所長の白鳥が異動することは、利用者さんやご家族の方のみならず私自身も正直心細い思いです。しかし径の役割をしっかりと考えポジティブな職員たちと一緒に、これまでの多くの方たちとの繋がりや、何よりも利用者さんから教えられるものを力として、自分なりに向き合っていきたいと思っています。どうぞよろしく願い致します。



所長 金子恵子

～栄区の皆さんありがとうございました～

この度、法人の新規事業として 3 年前より準備を進めておりました旭区の法人型地域活動ホーム（サポートセンター連／10 月オープン）に 9 月 1 日より異動することとなり、長年勤めた径には 8 月末でお別れすることとなりました。横浜市独自の事業として、各区に 1 館整備を進めている法人型活動ホームの第 1 号館目として径が開所した当時はすべてが試行錯誤の連続でした。特に、当時は“デイサービス＝高齢者サービス”という時でしたから、障害の方への“デイサービス”??? …って、それは私たちだけではなく、利用される方たちにとっても混乱の時だったかと思い出されます。また、365 日稼働のショートステイ・一時ケアの支援体制整備の課題、相談支援を施設の窓口ではなく地域の社会資源として位置付ける課題など、国の障害福祉施策が様変わりする過渡期の時期に、法人型活動ホームとしての機能を栄区の中で最大限発揮できるよう取り組んでまいりました。勿論、まだまだ課題は山積みですが…。今、法人の基盤がない地域（区）で仕事を始めるにあたって、何より径が頼もしい（うらやましい!）と感じるのは、運営に関係する様々な方たち（家族・地域・関係機関など）の理解と協力です。どの事業を取ってみても、職員の育成含め私たちだけでは成し得ないことです。施設そのものや障害の方たちの暮らしが地域の中に根付いていくというのは、正にそういうことなんだと改めて実感している今日この頃です。これからは金子所長を中心とした径を、これまで通りよろしく願いしたいと切に願います。そして、私自身が歩んできた朋→CAN→径の経験は何にも代えがたい財産であり、この学びを、旭区を含めた西部方面地域の多様なニーズを抱えた方たちに向き合っていくエネルギーに変えていくつもりです。なお、法人本部は栄区ということもあり、度々足を運ぶかと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

サポートセンター連の 白鳥より (\*^\_^\*)

# サポートセンター連 開所しました

相鉄線の緑園都市線沿い。南万騎が原駅から徒歩から5分、風光明媚な住宅地に1つの建物が完成しました。2007年9月22日のことです。

住み慣れた地域で暮らし続けられるように。障害有無に関わらず・・・そんな願いのもと、計画から3年以上の歳月を経て、横浜市旭区に「地域活動ホーム 連」が産声を上げました。

この、地域活動ホームは横浜市が各区に1館整備することを目標に取り組んでいるもので、「連」はちょうど15館目になります。

「連」この名前は、地域に住む方たちとのつながりを持てるようにとの思いが込められています。

径と同様に、心と知恵をあわせて、地域の方たちが親しめる場所となるよう、職員一同励んでまいりたいと思います。



この「連」のシンボルマークは、区内の小  
学生2人によってデザインされました。



# お知らせ

社会福祉法人訪問の家『後援会』から

〇 7 年 1 1 月 7 日 (水)

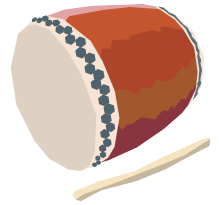
## 瑞宝大鼓

栄公会堂 栄区桂町 279-29

18:30 開場

19:00 開演

一般 2,500円 (全席自由)



知的障害があっても前向きに生きている彼らの迫力ある演奏を！感動を！ぜひ長崎を拠点にプロとして全国各地で活動している実力派。先日 NHK の TV でも取り上げられました。

お問合せ：045-306-7231 (訪問の家本部)迄

## 編集後記

暑い暑いと過ごしていた夏が、いつの間にか虫の鳴き声が聞こえる秋の涼しさを感じられるようになりました。

径の生活支援事業では学齢期の方達を対象にした長期休暇のプログラムで「季節を感じよう」をテーマに取り組んでいます。今年は猛暑と言われた夏でしたが、それをみんなで体いっぱい感じました！！季節を意識する事無く過ごしていた自分がこの仕事を通して、季節を楽しんで過ごしています。

それぞれの季節にしか出来ない事、味わえないものがたくさんあることにも気づきました。

心身すべてで感じられる「季節」はいいものです。

みなさんもぜひ季節を感じてみては・・・

「素敵な出会い」があるかもしれません。



伊豆恵

第22回  
愛ひかりバザール  
10月28日(日)  
10:00~  
14:30  
雨天決行  
主催 社会福祉法人 訪問の家  
愛ひかりバザール実行委員会  
協賛 ボランティアグループ「わかさの会」  
訪問の家 保護者会 朋・径・集  
バザー連絡先 横浜市栄区桂台中4番7号  
朋 894-6611 ・ 径 897-1101 ・ 集 751-8707【磯子区】

たくさんの方の協力を頂き、今年も愛ひかりバザールを開催いたします。地域の方々と楽しく過ごせるこのバザールを楽しみにしております。ぜひ足をお運び下さい、お待ちしております。

発行：社会福祉法人訪問の家 サポートセンター 径 広報係担当：庄司晃洋・伊豆恵・立花秀彦・渡辺敬子  
247-0034 横浜市栄区桂台中4-5 径 045-897-1101 FAX 897-1119